

## 情報源符号化の定式化・続

「情報源 alphabet と頻度との組」

が符号化の対象

$S$  : 情報源 alphabet (有限集合)

$P : S \rightarrow [0, 1] \subset \mathbf{R}$  : 生起確率  $\left( \sum_{s \in S} P(s) = 1 \right)$

情報源  $\mathcal{S} := (S, P)$

: 文字  $s \in S$  を確率  $P(s)$  で次々と発生

$\rightarrow w \in S^+$  を発生

(ここでの) 仮定 : 情報源の無記憶性

各  $s \in S$  の生起確率は、 $s$  のみで決まり、  
先立って発生した文字に依らない。

## 情報源符号化の定式化・続

$T$  : 符号 alphabet(有限集合)  
(しばしば  $T = \{0, 1\}$ )

$C : S \longrightarrow T^+ : \text{符号}$   
 $\longrightarrow$  文字列を並べて  $C^* : S^* \longrightarrow T^*$  に延長

$L(C) := \sum_{s \in S} P(s) |C(s)| : C \text{ の平均符号長}$   
(1 文字の符号語長の期待値)

## 符号への要請

- 一意符号:  $C^* : S^* \longrightarrow T^* : \text{単射}$
- 瞬時符号:  $C(x) = C(s)w \implies x = sy$   
(最初に届いた符号語  $C(s)$  で  
最初の文字  $s$  が復元できる)  
  
(以上は生起確率  $P$  には依らない)
- 効率が良い... 平均符号長  $L(C)$  が小さい  
(これは生起確率  $P$  に依る)

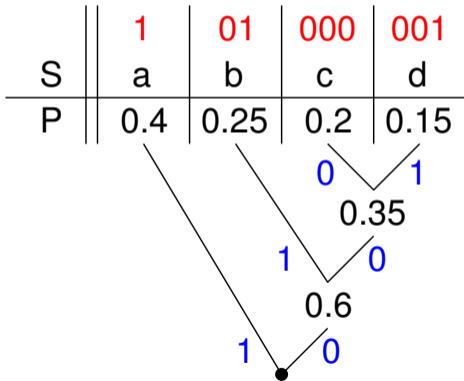
生起確率を考慮に入れて、

平均符号長の小さい符号の構成を考えよう

→ **Huffman 符号**

## 平均符号長の小さい符号の構成 (Huffman 符号)

例:  $\#S = 4 = 2^2$ , 平均符号長:  $1.95 (< 2)$



## Huffman 符号

- 瞬時符号の中での  
平均符号長  $L(C)$  の最小値を実現  
… 最適符号 (optimal code)
- 各文字の生起確率  $P(s)$  の  
“ばらつき” が大きいほど効果的
- 弱点: 予め生起確率が判らないと  
符号を構成できない

# $S = 2$  だったら、

どうやっても

(生起確率に関わらず)  $L(C) = 1$  か？

(何かうまい手はないか)

→ “**拡大情報源**” を考える

## 拡大情報源

情報源  $\mathcal{S} = (S, P)$  に対し、

“ $n$  文字づつまとめた情報源”  $\mathcal{S}^n$  を考える

$$\mathcal{S}^n := (S^n, P^{\otimes n})$$

$$S^n = S \times \cdots \times S = \{s_{i_1} \cdots s_{i_n} \mid s_{i_j} \in S\}$$

$$P^{\otimes n} : S^n \longrightarrow [0, 1] \subset \mathbf{R}$$

$$s_{i_1} \cdots s_{i_n} \longmapsto P(s_{i_1}) \cdots P(s_{i_n})$$

→ この情報源  $\mathcal{S}^n$  を符号化せよ



問題: 次の生起確率を持つ情報源

$S = (S, P), S = \{a, b\}$  について、

$S$	$a$	$b$
$P$	0.8	0.2

- (1) 2 次の拡大情報源  $S^2 = (S^2, P^{\otimes 2})$   
に対する **Huffman** 符号  $C_2$  を構成し、  
“1 文字当たりの平均符号長”  
 $L(C_2)/2$  を求めよ。

- (2) 3 次の拡大情報源  $S^3 = (S^3, P^{\otimes 3})$   
に対しても同様の計算をせよ。

一般に、

$n$  次の拡大情報源  $S^n = (S^n, P^{\otimes n})$   
の符号  $C_n$  で、

$n$  を大きくしてゆくと、

情報源 alphabet 1 文字当たりの平均符号長

$$\frac{L(C_n)}{n}$$

を下げる事が出来る

(符号は複雑になってゆくが)

$n$  次の拡大情報源  $\mathcal{S}^n = (S^n, P^{\otimes n})$   
の符号  $C_n$  を利用すると、

情報源 alphabet 1 文字当たりの平均符号長

$$\frac{L(C_n)}{n}$$

はどこまで下げられるか？

→ 情報源  $\mathcal{S}$  が本来持っている“情報の量”  
より小さくはならないだろう。

“エントロピー (entropy)”

$n$  次の拡大情報源  $\mathcal{S}^n = (S^n, P^{\otimes n})$   
の符号  $\mathcal{C}_n$  を利用すると、

情報源 alphabet 1 文字当たりの平均符号長

$$\frac{L(\mathcal{C}_n)}{n}$$

はどこまで下げられるか？

→ 情報源  $\mathcal{S}$  が本来持っている“情報の量”  
より小さくはならないだろう。

“エントロピー (entropy)”

$n$  次の拡大情報源  $S^n = (S^n, P^{\otimes n})$   
の符号  $C_n$  を利用すると、

情報源 alphabet 1 文字当たりの平均符号長

$$\frac{L(C_n)}{n}$$

はどこまで下げられるか？

→ 情報源  $S$  が本来持っている“情報の量”  
より小さくはならないだろう。

“エントロピー (entropy)”

## “情報の量”

「或る事象  $P$  が起こる」

という“情報の価値”は

どう評価したら良いか？

## “情報の量”

基本的なアイデア:

確率  $\frac{1}{4}$  で起きる出来事を  
教えてもらうことの価値は、

確率  $\frac{1}{2}$  で起きる出来事を 2 つ  
教えてもらうのと同じ

→ “情報の量” が 2 倍

「事象  $P$  が起こる」という“情報の価値”  $I(P)$

要請:

(1) 生起確率  $p$  のみに依る  $\longrightarrow I(p) := I(P)$

(2) 独立な事象  $P_1, P_2$  に対して、

$$I(P_1 \wedge P_2) = I(P_1) + I(P_2)$$

$$\longrightarrow I(p_1 p_2) = I(p_1) + I(p_2)$$

(3)  $I : (0, 1] \longrightarrow \mathbf{R}_{\geq 0}$  : 連続関数

(const. 0 ではない)

$$\longrightarrow I(p) = C \log \frac{1}{p} = -C \log p \quad (C > 0)$$



「事象  $P$  が起こる」という“情報の価値”  $I(P)$

要請:

(1) 生起確率  $p$  のみに依る  $\longrightarrow I(p) := I(P)$

(2) 独立な事象  $P_1, P_2$  に対して、

$$I(P_1 \wedge P_2) = I(P_1) + I(P_2)$$

$$\longrightarrow I(p_1 p_2) = I(p_1) + I(p_2)$$

(3)  $I : (0, 1] \longrightarrow \mathbf{R}_{\geq 0}$  : 連続関数

(const. 0 ではない)

$$\longrightarrow I(p) = C \log \frac{1}{p} = -C \log p \quad (C > 0)$$

## 「事象 $P$ が起こる」という“情報の価値” $I(P)$

$$I(p) = C \log \frac{1}{p} = -C \log p \quad (C > 0)$$

---

定数  $C$  の取り方

↔  $\log$  の底の取り方

↔ “情報量” の単位の取り方

通常 2 を底に取って ( $I(\frac{1}{2}) := 1$ )、

“情報量” の単位とする: bit (binary digit)

## 「事象 $P$ が起こる」という“情報の価値” $I(P)$

$$I(p) = C \log \frac{1}{p} = -C \log p \quad (C > 0)$$

---

定数  $C$  の取り方

←→  $\log$  の底の取り方

←→ “情報量” の単位の取り方

通常 2 を底に取って ( $I(\frac{1}{2}) := 1$ )、

“情報量” の単位とする: **bit (binary digit)**

## 情報源のエントロピー

情報源  $\mathcal{S} = (S, P)$  の

1 文字から得られる情報量の期待値

$$H(\mathcal{S}) := \sum_{s \in S} P(s) I(P(s))$$

: 情報源  $\mathcal{S}$  の**エントロピー (entropy)**

$S = \{s_1, \dots, s_k\}$ ,  $P(s_i) = p_i$  の時は、

$$H(\mathcal{S}) := \sum_{i=1}^k p_i \log \frac{1}{p_i} = - \sum_{i=1}^k p_i \log p_i$$

## 情報源のエントロピー

特に  $\#S = 2$  ( $S = \{ \text{起きる}, \text{起きない} \}$ ) の時、

- 起きる確率  $p$
- 起きない確率  $1 - p =: \bar{p}$

$$H(p) := H(S) = p \log \frac{1}{p} + \bar{p} \log \frac{1}{\bar{p}}$$

: 2 値エントロピー関数

---

問:  $y = I(p), y = H(p)$  のグラフの概形を描け。  
(最大値をとる  $p$  とその時の値は ?)

$n$  次の拡大情報源  $S^n = (S^n, P^{\otimes n})$   
の符号  $C_n$  を利用すると、

情報源 alphabet 1 文字当たりの平均符号長

$$\frac{L(C_n)}{n}$$

はどこまで下げられるか？

→ 情報源  $S$  のエントロピー  $H(S)$  より  
小さくはないだろう

→ まず一般に、符号  $C$  に対し、  
平均符号長  $L(C)$  と  $H(S)$  とを比べよう

$n$  次の拡大情報源  $S^n = (S^n, P^{\otimes n})$   
の符号  $C_n$  を利用すると、

情報源 alphabet 1 文字当たりの平均符号長

$$\frac{L(C_n)}{n}$$

はどこまで下げられるか？

→ 情報源  $S$  のエントロピー  $H(S)$  より  
小さくはないだろう

→ まず一般に、符号  $C$  に対し、  
平均符号長  $L(C)$  と  $H(S)$  とを比べよう

## 定理

$\mathcal{S} = (S, P)$  : 情報源

$\mathcal{C}$  :  $\mathcal{S}$  の一意符号 (瞬時符号)

$$\implies \boxed{L(\mathcal{C}) \geq H(\mathcal{S})}$$

(但し、 $\log$  の底は  $r := \#T$  に取る)

---

$\eta := \frac{H(\mathcal{S})}{L(\mathcal{C})}$  :  $\mathcal{C}$  の効率 (efficiency)

$\bar{\eta} = 1 - \eta$  :  $\mathcal{C}$  の冗長度 (redundancy)



## Kraft の不等式(再掲)

$$S = \{s_1, \dots, s_k\}, \quad \#T = r$$

自然数列  $(\ell_1, \dots, \ell_k)$  に対し、

各符号語長  $|C(s_i)| = \ell_i$  なる

$r$  元瞬時符号が存在

$$\iff \sum_{i=1}^k \frac{1}{r^{\ell_i}} \leq 1$$

## 補題

$$x_i, y_i > 0 \quad (i = 1, \dots, k)$$

$$\sum_{i=1}^k x_i = \sum_{i=1}^k y_i = 1$$

$$\implies \sum_{i=1}^k x_i \log \frac{1}{x_i} \leq \sum_{i=1}^k x_i \log \frac{1}{y_i}$$

(等号は  $\forall i : x_i = y_i$  のとき)

- $L(\mathcal{C}) = H(\mathcal{S})$  は実現できるのか？
- $\inf_{\mathcal{C}} L(\mathcal{C}) = H(\mathcal{S})$  であるか？

Huffman 符号は確かに最適だが、  
 $L(\mathcal{C})$  の上からの評価は難しい

→ Shannon-Fano 符号  
(Kraft-McMillan の不等式の利用)

- $L(C) = H(S)$  は実現できるのか？
- $\inf_C L(C) = H(S)$  であるか？

**Huffman** 符号は確かに最適だが、  
 $L(C)$  の上からの評価は難しい

→ **Shannon-Fano** 符号  
(**Kraft-McMillan** の不等式の利用)

- $L(C) = H(S)$  は実現できるのか？
- $\inf_C L(C) = H(S)$  であるか？

**Huffman** 符号は確かに最適だが、  
 $L(C)$  の上からの評価は難しい

→ **Shannon-Fano** 符号  
(**Kraft-McMillan** の不等式の利用)